

子ロバキッズひろばで大切にしている事について

お子さんが療育でどのような事を学ぶのか、療育に通う事で良い変化があるだろうなど療育に対して保護者の方の期待や思いがあることと思います。

さまざまな方を対象に療育を提供する側として、療育の前に大切にしたいことがあります。

それは、お子さんが安心感をもってこの場にいれるかどうかということ。

どんな人でも、何かを学ぶ際には、不安な気持ちを抱えた状態では、何も学び取ることは出来ません。安心感を持って、リラックスした状態で、信頼できる大人との間でこそ『学び』は深まります。

『学び』を深めるための安心感なくしては、療育を行っても効果は上がりません。安心感はどうすれば得られるのでしょうか。

それは、大人が子どもを『受け止める』事と、『しつけ』をするという事から子どもの安心感は育まれていきます。

『受け止め』と『しつけ』の相反する2つをバランスよく大人が行うことが重要です。

『受け止める』とは、子どもの気持ちや行動をありのまま受け止めることです。頭では分かっているでも簡単に出来ることではありません。すべてを受け止めることも不可能ですし、また、すべてを受け止めなければならないというわけでもありません。

子どもの気持ちや行動を受け止めるためには、[子どもの行動の理由を理解すること](#)が「受け止める」という事へつながります。

子どもの行動にはさまざまな理由があります。その理由やパターンは、すぐにわかるわけではありません。みんな同じ場合もあるし、うちの子独特の理由もあるでしょう。時間をかけて知っていく必要がありますが、成長と共に変化もしていきます。その日のうちに解決しない事もあるでしょう・・・。

子どもの行動の理由やうちの子の特徴について、保護者の方が「どうして？」と疑問に思い考え、誰かに相談したりしながら、子どもの姿を見る事が、子どもにとっては、自分のことを真剣に考えてくれる存在なのだと感じることにつながります。

そういった保護者の方の姿勢により子どもは安心感を得ることが出来るのです。

もう一つの『しつけ』とは、必要な時にはっきりとルールを教え、すべき事や、出来ない事、してはいけない事を教えるという事です。

つねに厳しく接する必要はなく、ここという場合や絶対に譲れないとき、子どもの命や安全にかかわる時などに毅然とした態度で子どもに接するという事です。

子どもは、ルールや物事の限度を知りません。保護者の方が丁寧に関わり教えていくことで、学び、その行動や調整が少しずつ出来るようになるのです。また、ルールや限度を示すことは、子どもの安全や命を守ること、保護者と離れて過ごすときの適切な行動を身に付けることになり、結局は、子どもの生きる力をつけ、子どもを守ることにつながります。

子どもは、成長するにつれ、そのような保護者の接し方を、厳しいけれど自分をしっかりと守ってくれる存在なのだと理解し、安心感を得ることが出来るのです。

子どもに安心感を与え、成長する力を与えることが出来るのは、保護者の方や私たち支援者、周りの大人なのだという事を意識したうえで、子どもたちと関わっていけるといいですね。